

専用取扱説明書

品番 **BAC-700-WBG**

Atmung
アートムング



《必ずお読みください!》

重 要

本製品は100%完成車ではございませんのでお客様に調整等をお願いすることがございます。お手数をおかけすることがございますがあらかじめご容赦くださいませ。

(組み立て、ギア・ブレーキの調整等、その他)

また初めてのご乗車の前や日々のご乗車の前には、日常のお手入れ欄に記載されている点検項目を、必ずチェックしてくださいませようお願いいたします。

製品の改良のために仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。
また、お買い上げの車種によりましては、説明書と実物の部品の仕様、形状等が異なる場合がございます。

もくじ

注意、日常のお手入れ、警告	1 ページ
各部名称	2 ページ
キャリパーブレーキ前輪タイヤの取り付け	3～4 ページ
ハンドルの取り付け	5 ページ
サドルの差し込み、固定方法	6 ページ
ペダルの取り付け	7 ページ
変速機の調整(リアディレーラー)	8～9 ページ
リアブレーキの調整(キャリパーブレーキ)	10 ページ
MEMO	11～12 ページ
アフターサービス	13 ページ
カスタマーサポートセンター	13 ページ

アフターサービス

●保証書

必ず販売店印及びお買い上げ日をご確認のうえ、お買い上げの販売店から受け取り、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。また、お客様にて改造または修理をされた商品に関してましては保証対象外となります。何卒ご了承ください。お客様にて修理された際の費用のご請求は一切お受けできません。

※通信販売などでお買い上げの場合は、販売店の購入明細、日付の入った代金引換の領収書などが販売店印の代わりとなりますので、大切に保管してください。

●修理をお申し付けされるとき

[保証期間中]

商品と保証書をお買い上げ店にご持参、ご提示の上ご相談ください。保証書に記載されている保証修理規定に基づき、修理いたします。

[保証期間を経過しているとき]

お客様のご要望により有料で修理いたします。※往復送料はお客様負担となります。

●アフターサービスについてのご不明の場合

お買い上げの販売店または、弊社カスタマーサポートセンターにご相談ください。

補修用性能部品の生産終了後の保有期間は2年です。

カスタマーサポートセンター

WEB

弊社ウェブサイトにて製品情報及び製品サポート情報をご確認いただけます。

▶ <http://www.b-grow.com/support/>

▶

MAIL

受付時間外のお問い合わせはメールにて受け付けております。

▶ ss@b-grow.com

※ご返信は受付時間内での対応となります。予めご了承ください。

TEL

お電話でのお問い合わせはこちら

▶ **050-3505-7050**

受付時間 **10:00～17:00**
(土日祝、弊社休業日を除く)

※時間帯により、電話が集中し、つながりにくい場合がございます。予めご了承ください。
※お電話番号をお確かめのうえ、おかけ間違いのないようにおかけください。
※電話番号・受付時間などについては、変更になる場合がございます。

消耗品・部品のご注文

下記オフィシャルサイトにて消耗品及び部品のご注文を承っております。

暮らし育てるアイデア

D.I.G-mania.

ディグマニア

▶ <http://www.dig-mania.jp>

ご購入後のお問い合わせにつきましては、以下の項目をご確認のうえお問い合わせください。

- 品番 ■品名 ■お買い上げ日
- お買い上げ店名
- お問い合わせ内容

発売元

株式会社 阪和

〒556-0016 大阪市浪速区元町3-11-16

《必ずお読みください!》

この説明書の項目を十分にご確認ください。
別紙取扱説明書には自転車点検リストが付いていますので
日頃の点検、整備を行ない、安全走行をお願いいたします。

- 変速機、ブレーキ等に関しましては、工場出荷時点で調整を行なっておりますが、輸送中の振動等により、お客様ご自身での調整が必要になる場合がございます。
あらかじめご了承ください。
- ハンドル、ペダル等は必ずご乗車の前にしっかりと固定されているか確認してください。
- ブレーキの点検はご乗車前に必ず行なってください。

その他の事項につきましても必ず説明書をよくお読みください。

日常のお手入れ

自転車のご使用に際しては、日常のお手入れ調整が必要になります。
ご乗車前には下記注意事項を参考に、各部の点検を行なってください。

- | | |
|------------|--|
| ● 各部の点検 | ● 保管方法とお手入れ |
| ・ハンドルの固定 | ・保管は水、雨のかからない場所で行なってください。 |
| ・ペダルの固定 | ・場所の確保が困難な場合は、カバーを使用するなどしてなるべく水分を避けてください。 |
| ・サドルの固定 | ・自転車を濡れたまま放置いたしますと、サビ、劣化の原因となります。 |
| ・変速機の調整 | ・水分を拭き取るなどして保管してください。 |
| ・タイヤの空気 | ・チェーンには定期的に注油を行なってください。 |
| ・ブレーキの効き具合 | ・なお、リムやペダルの固定部分等には潤滑油の類は注油しないでください。部品の脱落、事故の原因となります。 |



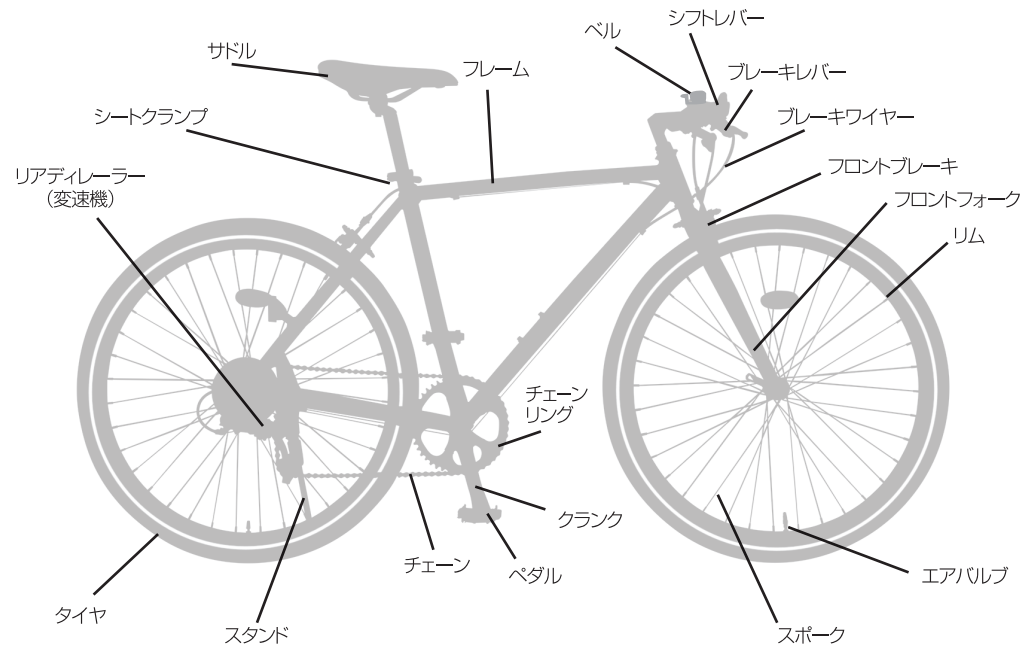
日常の点検を怠りますと、思わぬ事故につながる可能性があります。
乗車前点検や日々のメンテナンスは必ず十分に行なってください。

製品の改良のために仕様の一部を予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。
また、お買い上げの車種によりましては、説明書と実物の部品の仕様、形状等が異なる場合がございます。



警告

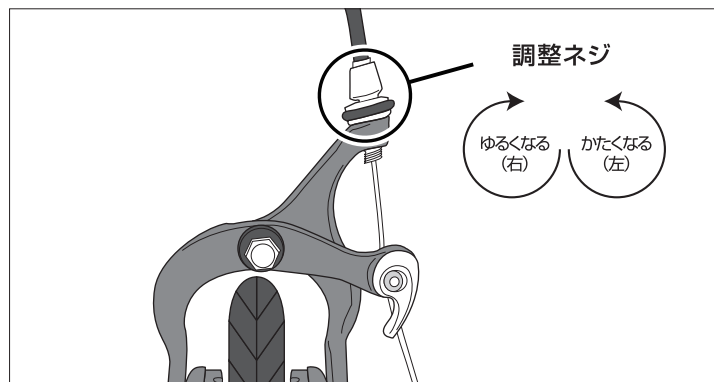
各部名称は下記写真をご確認ください。誤った取り回しをすると、ブレーキや変速機に負荷がかかり、走行に影響が出たり転倒したりするおそれがあります。



■セット内容

簡易工具、英仏変換バルブ、取扱説明書（保証書付）、専用組み立て説明書

ブレーキの調整(キャリパーブレーキ)



調整ネジで調整します。

調整ネジは

「**ブレーキ本体付近**」に付いています。

ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合や、
ブレーキがかたい場合などに調整してください。

- ブレーキパッドと車輪の間隔が広い場合は調整ネジを反時計回りに回して、
ブレーキパッドと車輪の間隔を調整してください。(目安は3～4mmです)

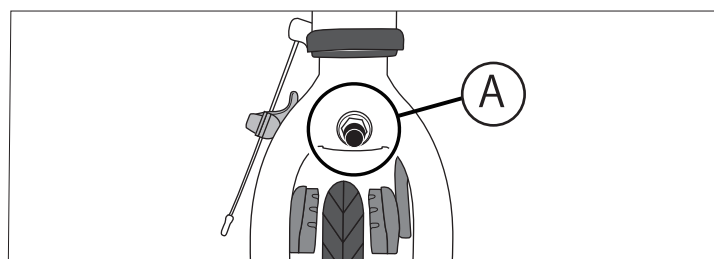
ブレーキを握り込んでもブレーキが効きにくい場合

調整ネジを左に回し、ブレーキをかたくしてください。
ブレーキレバーを握りながらかたさを調整してください。

ブレーキが固い場合

調整ネジを右に回し、ブレーキをゆるめてください。
ブレーキレバーを握りながらかたさを調整してください。

- 片側のブレーキパッドしか車輪に当たっていない場合は下図Aのナットを付属の簡易工具でゆるめ、右のブレーキパッドの位置を手で均等に合わせながら再度Aのナットをしめてください。

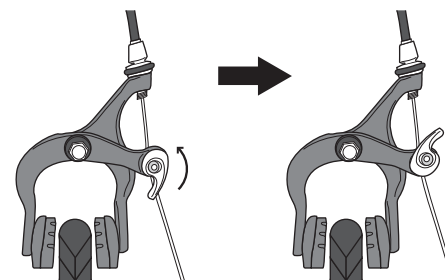


キャリパーブレーキ前輪タイヤの取り付け

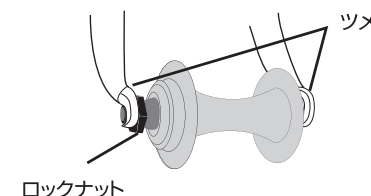
本製品は前輪を外した状態で梱包されています。

取扱説明書の手順に従って組み立てを行なってください。

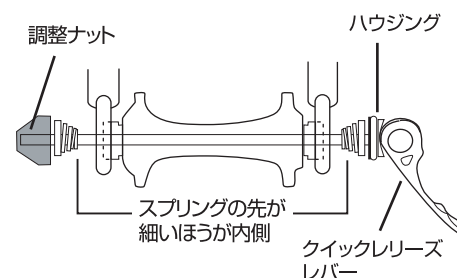
- ①カムレバーを起こしてブレーキワイヤーのロックを解除します。



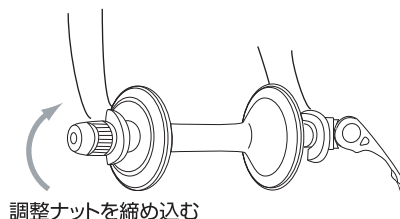
- ②フロントフォークの左右のツメを前輪のロックナットの外側部分に引っかけます。



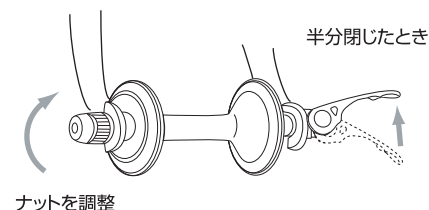
- ③下図のように付属のクイックリリースレバーを前輪に取り付けます。



- ④クイックリリースレバーを開いたままにして、調整ナットおよびハウジングがともにすきまがなくなるまで調整ナットをしめ込みます。



- ⑤クイックリリースレバーを半分閉じたときレバー操作がかたくなり始めるように調整ナットを調整します。



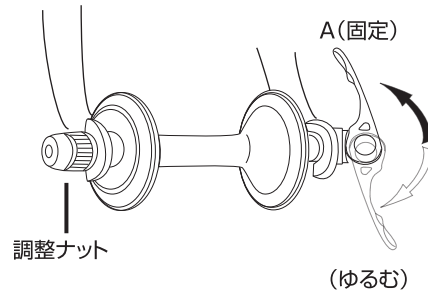
- ⑥クイックリリースレバーを最後まで閉じ込んで固定します。レバーを閉じ込んだときに少しかたいと思う程度で、押し付ける力は160～200N(16～20kgf)になるように調整ナットを調整してください。

- ⑦車輪が確実に固定されているか確認してください。

- ⑧ブレーキのカムレバーを元へ戻し、ブレーキレバーを引いたときに正常に作動するか確認してください。



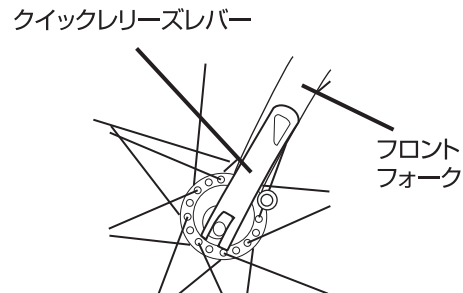
クイックリリースレバーをAの位置まで操作したときに十分固定できることが重要です。もし、レバーがかたすぎたり、ゆるすぎて固定が十分でない場合は危険ですので再調整してください。



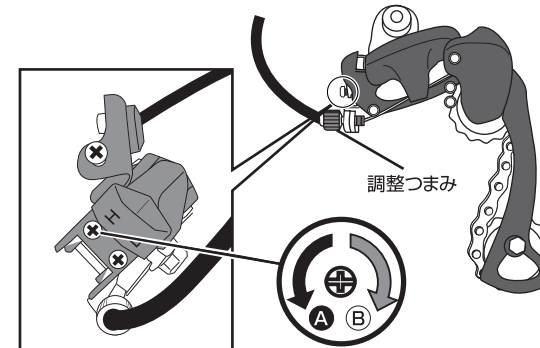
クイックリリースレバーは必ず前後輪とも乗車して左側になるようにしてください。



クイックリリースレバーは閉じこんだときフロントフォークを横から見てほぼ平行にそわせてください。



① トップ側の調整



トップアジャストボルト (「H」と記されています)

トップ側の調整は変速機を操作し、リアディレーラーが車輪の一番外側のトップギア(重たいギア)に来るようにしてから、調整を始めてください。

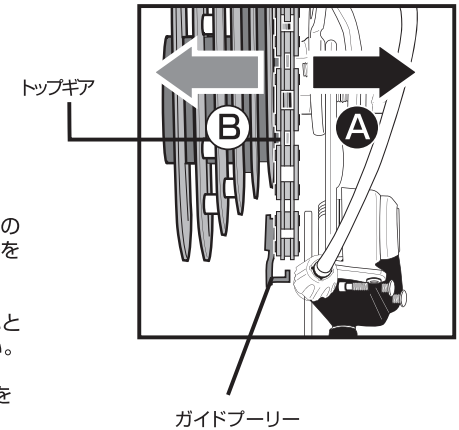
Hのネジをプラスドライバーで回し、ガイドプーリーの中心とトップギアの外側が一直線上に並ぶように調整してください。

※トップ側へチェーンがはずれるときは、トップ調整ボルトをしめてください。

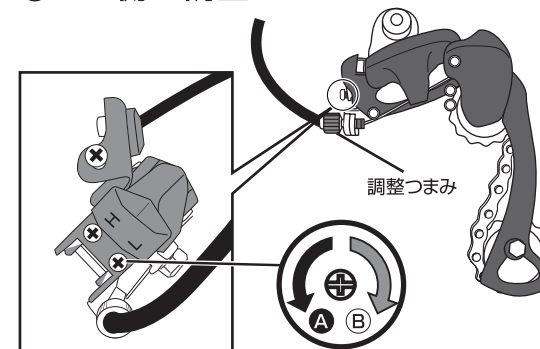
使用する工具:
プラスドライバー



● 後輪ギア部を後から見たイラスト



② ロー側の調整



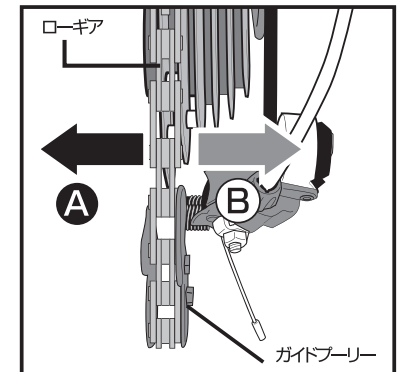
ローアジャストボルト (「L」と記されています)

変速機を操作し、リアディレーラーが車輪の一番内側のローギア(軽いギア)にくるようにしてから調整を始めてください。

Lのネジをプラスドライバーで回し、ガイドプーリーの中心とローギアの中心が一直線上に並ぶように調整してください。

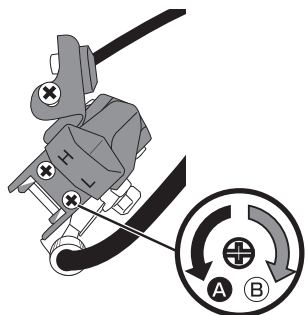
※ロー側へチェーンがはずれるときはロー調整ボルトをしめてください。

● 後輪ギア部を後から見たイラスト

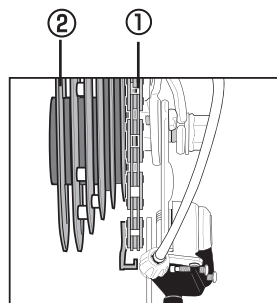


変速機の調整(リアディレラー)

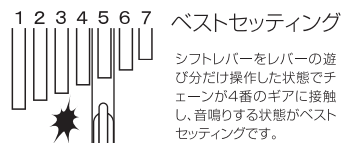
変速機の調整は工場出荷時に行なわれておりますが、お客様自身による調整が必要になる場合がございます。なお、変速機の調整は保証・サポートの対象外となります。あらかじめご了承ください。



※車種により変速機の形状が異なります。こちらは一例です。



① 一番外側の小さいギアを7段目
② 一番内側の大きいギアを1段目とします。※7段変速の場合



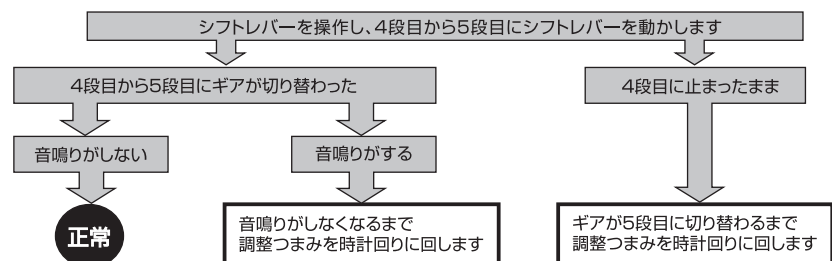
ベストセッティング
シフトレバーをレバーの遊び分だけ操作した状態でチェーンが4番のギアに接触し、音鳴りする状態がベストセッティングです。
レバーをもとの位置に戻し(レバーは5速の位置でレバーから指を離した状態)、クランクを回転させてください。4番目のギアと接触し、音鳴りが残っている場合は調整つまみを少し回して(時計回り)、音鳴りのしないぎりぎりのポイントで止めるようにしてください。



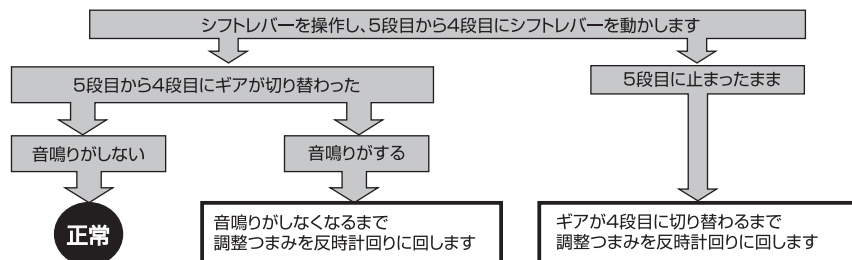
強制

ディレラーの調整は必ずクランクを回しながら行なってください。クランクを回さない状態では絶対に調整しないでください。

【4段目から5段目にシフトアップする場合】



【5段目から4段目にシフトダウンする場合】

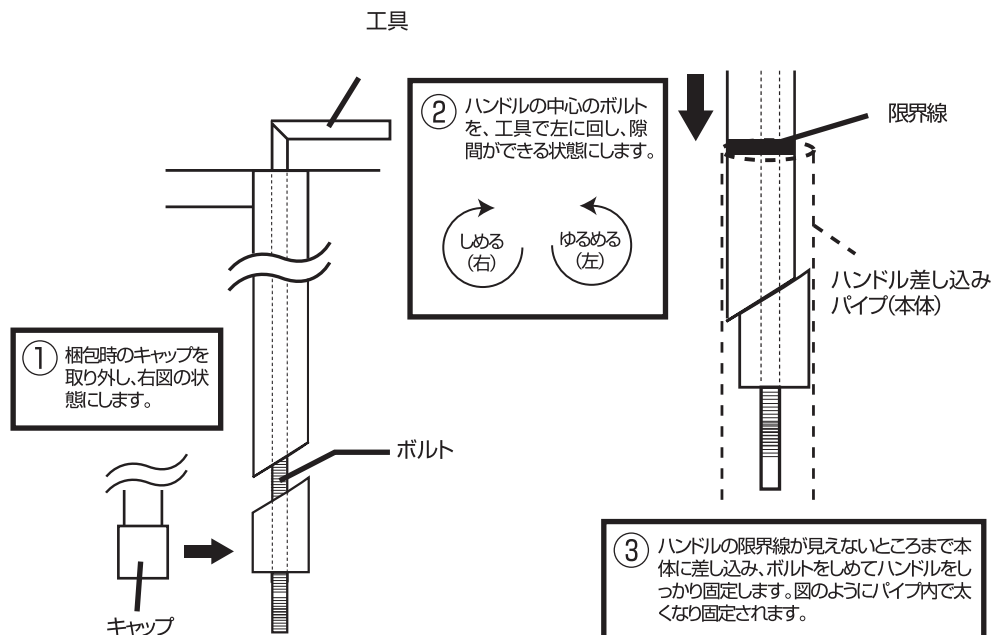


※この調整は各ギアごとに行なってください。

また、調整つまみで調整しきれない場合はディレラーをトップギア側(外側)にし、調整つまみを締め込み再度変速ワイヤーを張りなおしてください。外装変速機の調整は経験に左右されることが多いですから、何度か試してみるのが良いでしょう。

ハンドルの取り付け

ハンドルを取り付ける際はブレーキワイヤー等が絡んでいないことを確認してください。

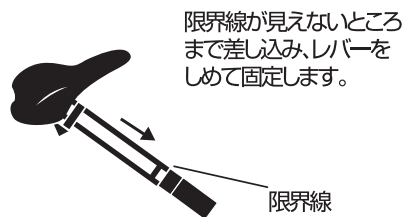


ハンドルバー、ハンドルステムが確実に固定されていることを確認のうえで乗車ください。ハンドルステムを下げて固定する場合、最も下げた状態で固定しないでください。

サドルの差し込み、固定方法

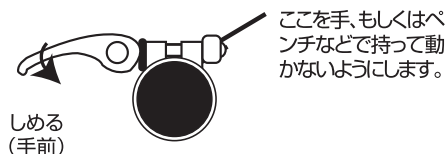
⚠ 注意

サドルは、しっかりと固定してください。固定されないまま乗車されますと、事故の原因となります。乗車前には必ずゆめがないかどうか点検を行ってください。



レバーを倒してもサドルが固定されない場合

レバーがかたく最後まで押し込めない場合



まず、レバーを起こした状態にします。次にネジが動かないように手で持ち、レバーを手前(正面から見た場合時計回り)に回すとネジがしまりますので、レバーをしっかりと倒した時点でサドルが固定されるように調整してください。



まず、レバーを起こした状態にします。次にネジが動かないように手で持ち、レバーを奥(正面から見た場合反時計回り)に回すとネジがゆるみますので、レバーをしっかりと倒した時点でサドルが固定されるように調整してください。

ペダルの取り付け

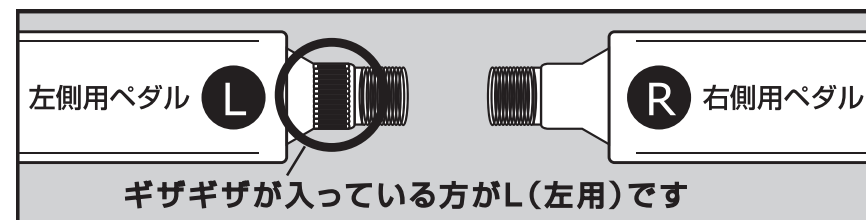
下記の注意点をお読みのうえ、取り付け作業を行ってください。

重要～取り付け時の注意点～

ペダルの取り付け方

- ①最初に手でペダルのネジをクランク(ペダルを取り付ける部分)のネジ穴に2～3回転程度ねじ込みます。
- ②まっすぐねじ込まれているのを確認してから、必ず工具を使用してしっかりと固定してください。固定が弱いと、破損、事故の原因となります。

- ペダルには右用、左用があります。左右を間違えると取り付けできません。



⚠ しめつけ方向にご注意ください。

※ペダルイメージ

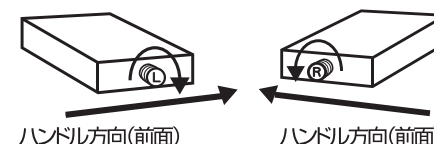
ペダルは左右でしめつけ方向(ネジの向き)が異なります。

右ペダル:時計回り
左ペダル:反時計回り

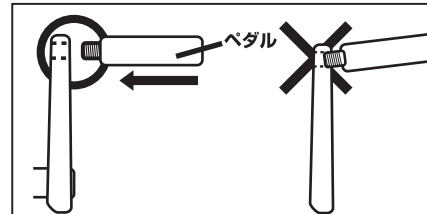
※しめつけ方向を間違えますと、クランクのネジ穴を破損します。お客様の取り付けミスによる破損は保証対象外となります。

左側用ペダル
(Lマーク付き)

右側用ペダル
(Rマーク付き、チェーン側)



- 取り付けはクランクに対して垂直に行ってください。



取り付けの際は、クランクのネジ穴とペダルのネジが垂直になるようゆっくりとネジをしっかりとめてください。万一、ネジが斜めに入ってしまうと、クランクのネジ穴が破損してペダルの取り付けができなくなります。その際は修理が必要となります。弊社にて修理は可能ですが送料・修理代金等はすべてお客様のご負担となります。